

平成 27 年度

土浦一高通信 No. 4

[定時制特集] (地域広報版)

発行 県立土浦第一高等学校

土浦市真鍋 4 丁目 4 - 2

TEL 029-822-0137

FAX 029-826-3521

平成 27 年 12 月 11 日

土浦一高定時制について

教頭 佃 敦之

地域の皆様には日頃より、本校定時制に様々なご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

定時制の授業は夕方 5 時 15 分に始まり、8 時 50 分に終了します。

昼間に働いている生徒も多く、**仕事と学業を両立**させるために努力を重ねています。

異なる年齢の生徒など**様々な生徒たちが集う環境**のなか、伸び伸びとした学校生活が展開されています。



貴重な文化財である旧土浦中学校校舎本館

5つの魅力



- ① 異なる年齢の生徒や帰国子女など**様々な生徒たちが集う環境**のなかで、色々な人たちの考え方に触れることができます。
- ② 定時制の修業期間は、4 年ですが、「3 修制」(高卒認定試験、通信制との併修)により、**3 年間で卒業することが可能**です。
- ③ 不安や悩みを抱え困らないように、スクールカウンセラーとの相談など**細やかなサポート**を受けることができます。
- ④ **生徒会活動や部活動が活発**であり、生徒たちはのびやかに生き生きとした高校生活を送っています。
- ⑤ **毎日が出来たての給食**。栄養職員さんたちが作った給食は「美味しい」と大好評。定時制のアットホームな雰囲気の秘訣です。



生物基礎の授業風景



活発な学校行事

文化祭、校内球技会、進路説明会、遠足など学校行事を数多く実施しています。本校定時制では様々な体験をとおして、人間性豊かな人材育成に努めています。

定時制の多様な選抜方法

一般入学者選抜の他にも、次の通り多様な選抜方法を用意しています。該当する場合は是非利用してください。

成人特例入学者選抜

- 対象…満二十歳以上の方
- 選抜内容…面接、作文(学力検査は行わない)

帰国子女の特例入学者選抜

- 対象…入学時までに帰国または帰国予定であり、海外在住期間が二年以上の生徒
- 選抜内容…学力検査(国語、数学、英語)と面接

外国人生徒の特例入学者選抜

- 対象…外国籍を有し、入国後の在日期間が三年以上の生徒
- 選抜内容…学力検査(国語、数学、英語)と面接

今年度の定時制の活動

部活動(定時制通信制体育大会結果)

○茨城県大会(夏季大会及び秋季大会)

6月と10月に行われた県定時制通信制体育大会の主な結果は下記のとおりです。

剣道部(夏季) : 男子個人戦(優勝)(準優勝)

柔道部(夏季) : 男子個人戦(第3位)

バドミントン部(夏季) :

男子シングルス(優勝) 男子ダブルス(第3位)

女子ダブルス(第3位) 女子シングルス(第3位)

バドミントン部(秋季) :

男子ダブルス(優勝) 男子シングルス(準優勝)

女子シングルス(優勝)(準優勝)

○全国大会

全国大会には剣道部、柔道部、バドミントン部が出場。**剣道部が団体戦ベスト8**に進出しました。



定時制通信制生徒生活体験発表大会で本校生が鹿嶋市教育委員会教育長賞を受賞!

10月、「県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」が行われ、本校からは2年生の鶴川心さんが出場しました。鶴川さんは「私は多くの疾病を抱えているが、目標をもち今後も努力を続けたい」と発表しました。スピーチは多くの方々の感動を呼び、温かい拍手に包まれました。



発表の様子

常総大水害への募金活動を行いました!



生徒会では、先の大水害に際し、自分たちで出来ることはないかを話し合い、定時制全生徒に呼びかけ、募金活動を行いました。**義援金(31,101円)**は茨城新聞を通して被災地に届けられました。



定時制 魅力ある部活動 バドミントン 男子ダブルス 歳の差38才ペア 県大会優勝



10月11日(日)。水戸南高校を主会場として、県高校定時制通信制体育大会秋季大会が行われました。

バドミントン男子ダブルス部門において、本校から3学年**米田賢一さん(56才)**、3学年**大曾根充さん(18才)**ペアが出場し、見事、優勝しました。

2人の歳の差は、なんと38歳。定時制の部活動ならではの快挙といえます。今回はそのときの様子と現在の気持ちをインタビューしました。



喜び一杯の大曾根さん(左) 米田さん(右)



Q: 質問者

米: 米田さん 大: 大曾根さん

Q: このペアはどのようにして出来ましたか?

大: 僕から米田さんを誘いました。米田さんは(3卒なので)3月で卒業です。部活動でも、ぜひ有終の美を飾って貰いたかったからです。

米: 大曾根君からの申し出はとても嬉しかったです。ただ彼は有力選手です。私とは技量に差があり、少し恐縮しました。

Q: どのような練習をしていましたか?

大: 練習試合形式に時間をかけました。ダブルスなので、二人の息を合わせました。

米: 卒業生(OB)がわざわざやって来てくれて、胸を貸してくれました。ありがたかったですね。

Q: 大曾根君は前回、県の男子シングルのチャンピオンです。どんな気持ちで試合に臨みましたか?

大: どんな試合も、とにかく集中力が全てです。実はダブルスの優勝も2回目ですが、今回は米田さんとの優勝。最高の気分でした。

Q: 米田さんはこの試合が高校時代の最後の公式戦でした。どんな気持ちで試合に臨みましたか?

米: 「とにかく大曾根君の足を引っ張らないように頑張るぞ」。その一心でした。最後の大会で、素晴らしい思い出ができました。



二人の息の合った試合展開

Q: 決勝戦はどんな気持ちでしたか?

大: 勝っても負けても、一生懸命に、そして楽しんで試合をしようと思いました。

米: 精一杯のプレイを心がけました。「私の力不足は大曾根君、よろしくね」という感じ(笑)。

Q: 定時制の部活動の魅力とは何ですか?

大: のびのび楽しく頑張ることができるとです。米田さんのように人生の大先輩の方が、一生懸命練習をしている姿を見ると、とても良い刺激になります。

米: 私のような中高年の部員にも、みんなは優しく誠実に接してくれます。そして一方で、こんな「じい」にも容赦なく(笑)、渾身のスマッシュを打ち込んでくれます。本当に楽しく豊かな時間です。